



## 希望に満ちた春を迎えよう！

一年中でもっとも寒いと言われる時期です。そんな寒さの中、「おはようございます。」と元気な挨拶で登校してくる生徒を見てみると、何だか嬉しくなってきました。

また、校内のいろいろな場所で、朝練に励む部活動の生徒達、矢野中の朝は、活気があり、生き生きと活動する生徒の姿が多く見られます。

さて、2月3日は季節の分かれ目「節分」です。鬼を追い払って春と福を呼び込みます。そして、翌日は立春、春はすぐそこまで来ています。しかし、それは暦の上でのことであって、実際のところは、まだまだ厳しい寒さが続きます。希望に満ちた春を迎えるための、最後の試練のようです。

学校では、1年生や2年生の頑張りがよく見えます。そして、3年生、今まさに試練の時です。人生の岐路（わかれ道）に立って、一人ひとりの生徒が真剣に自分と闘っています。これから、大部分の生徒が受験の時を迎えます。一人ひとりにより知らせがくることを祈ります。

## 社会性を身につける第一歩は家庭のルールづくりから

本校では、ルールやマナーが守れる生徒の育成をめざしています。ある本によると、子どもにとって、家庭の約束事がある家庭とそうでない家庭では、子どもの行動の仕方にかなりの差が生じてくるそうです。

門限はもちろん、食事の仕方、外出時の約束、テレビやゲームの時間などルールのある家庭の子どもは動きが節度があり、場の雰囲気にならざることを行動できるとあります。

私も、家庭にある約束事は、子どもの生き方を決める価値観に大きく影響するものと考えます。我が家も、子どもの成長に応じて約束事を決めてきました。それは、家族が一つ屋根の下で暮らすうえで必要な事であったり、欲しい物がある時の事だったり、その時々に応じて、様々な約束事やルールを設けてきました。

例えば、小学生時代、「門限は町内のチャイムが鳴るまで」「できない約束はしてくるな」などでした。時として子ども同士のつき合いにおいて、子ども達は友だちと我が家のルールの板挟みになる時もあったと思います。

高学年になると「チャイムが門限だなんて僕の家ぐらいだ」などと、泣きながら訴えてきた時もありました。そんな時はちょっと厳しすぎるかなと思う事もありましたが、「いったん決めたルールは、よほどの事がない限り変えられない」という事にしておかないと、ルールを決めた意味がなくなってしまうので、そのまま守らせました。

子どもは、家庭でのルールや約束を守ったり破ったりしながら、人との関係のあり方や社会のルールの大切さを学んでいきます。

家庭のルールには、あいさつ、家に帰る時間、寝る時間、食事をする時のマナーなどの生活上のものもあれば、他人に迷惑をかけない、うそをつかないなどといった道徳上のルールもあります。しっかりと身につけさせるためにも、親がよく考えてはっきりしたルールをつくり、子どもと共に親もそれを守る必要があると考えます。

また、中学生になったら子どもの意見を聞いて一緒にルールをつくるという姿勢も、大切なのではないのでしょうか。

